



【市指定史跡 小出陣屋(倉見陣屋)】



倉見陣屋(豊岡市倉見字石谷)

倉見陣屋は小野川右岸、倉見集落北側の山裾、二つの尾根に囲まれた標高 10.9m の谷部に立地する。絵図などが残されていないため、その範囲は明らかではないが、現在の遺構から判断すると東西約 100m・南北約 100m ほどであろう。

寛文六年(1666)第4代出石城主小出吉英(5万石)の死後、その遺領を長男吉重が 45000 石で継ぎ、残る 5000 石を3人の弟に分封した。即ち、二男英本に出石郡 2000 石(倉見小出家)、三男英信に養父郡 2000 石(大藪小出家)、四男英勝に気多郡 1000 石(山本小出家)が与えられ、旗本の小出3家が成立した。

倉見小出家の祖である英本の所領として、倉見・長谷(豊岡市)、三原・東里・日向・西野々・高竜寺・畑山・赤花の一部(但東町)が与えられ、倉見に陣屋を設けた。陣屋は初め「字中地の古屋」であったが、享和三年(1803)「字石谷」に移転した。倉見小出家は、幕末まで存続した。

(※豊岡市の城郭集成 I より)

※神美カルタとりのヒント

